

1) 著作権保護のための表示

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

2) 研究会基本情報

「アフリカ食文化研究—変貌しつつあるその実像に迫る—」（令和6年度第1回研究会）

日時：令和6年6月15日（土）13:30～17:15、6月16日（日）10:00～12:40

場所：東京外国語大学本郷サテライト3階セミナールームおよびZoom

6月15日（土）

13:30～15:15 稲井啓之（早稲田大学）研究発表「カメルーン半乾燥地における魚食文化」

15:30～17:15 鈴木英明（国立民族学博物館）研究発表「スワヒリ海岸のサメ干し肉—インド洋西海域とのかかわりのなかで」

6月16日（日）

10:00～12:15 中尾仁美（京都大学大学院）研究発表「タンザニア北西部における主食の地域比較：トウモロコシとキャッサバの利用に着目して」

12:25～12:40 藤本武（富山大学）研究連絡「出版企画の連絡および今後の予定」

概要

1) 1日目（6月15日）は、まず稲井啓之氏（早稲田大学）によって、カメルーン北部を中心とした半乾燥地における魚食文化が漁撈技術や流通経路などとともに報告され、2) 続いて、鈴木英明 AA 研共同研究員（国立民族学博物館）により、スワヒリ海岸のサメの干し肉の食文化に関する歴史学的報告が行われ、プランテーションとの関連による成立とする仮説が提唱された。3) 2日目（6月16日）は、中尾仁美氏（京都大学大学院）によるタンザニア北西部キゴマ州でのトウモロコシとキャッサバのウガリ（練粥）を中心とした食文化に関する現地調査にもとづいた詳細な発表が行われた。いずれの研究発表も活発な議論・意見交換が行われた。4) 最後に藤本 AA 研共同研究員代表より、本共同利用・共同研究課題メンバーを中心に現在進行中の出版企画に関する連絡と今後の予定に関する説明などがなされた。ハイブリッド形式で2日間にわたって開催したが、今回は日本文化人類学会の日程と重なってしまい、参加者はこれまでよりやや少なかったが、これまで同様熱心な議論が行われ、全体として大変有意義な研究会であった。